

009	From Editor
011	表紙の時計 / ジラルール・ペルゴ ヶ ロレアート 38mm クロノグラフ
012	Editor's Choice! ヴァシロン・コンスタンタン ヶ オーヴァーシーズ・デュアルタイム ヶ モンブラン ヶ モンブラン 1858 ジオスフェール ヶ オーデマピゲ ヶ ロイヤルオーク オフシヨア・クロノグラフ ヶ ジャガールクルト ヶ ジャガールクルト ポラリス・メモボックス ヶ ウブロ ヶ クラシック・フュージョン チタニウム ディープブルー ヶ モリッツ ヶ グロスマン ヶ ベヌー 37
018	世界は時計で回っている。
020	A・ランゲ&ゾーネ ヶ トリップルスプリット
022	12時間耐久レースの測定も可能にしたスプリット・クロノグラフ パルミジャーニ・フルリエ ヶ ブガッティ・タイプ390
024	◆妥協のなさ◆が生んだドライバーズ・ウォッチ オフイチャーネ・パネライ ヶ ラストロノモル・ミノール1950 トゥールビヨン・ムーンフェイス・ イクエーション オブ タイム GMT
026	ガリレオ・ガリレイに捧げるスーパー・モデル ステラ・ポラーレ ヶ リアルムーン・ステラ・ネピュラ
028	文字盤の輝きに秘められた地球と古代生物の歩み ボーム&メルシエ ヶ クリフトン ボーマティック
030	先端技術が生んだボーム&メルシエ初の専用ムーブメント RJ2018年モデル ヶ RJXSスパイダーマン ヶ & スカイラブ グラン・ラ
032	意外性に富んだ大胆な発想から生まれたモデル ルイ・ヴィトンの2018年新作ウォッチ ヶ タンブルムーン ヶ & タンブル インターチェンジャブル・ストラップで広がる時計の楽しみ

035 2018年新作情報【バーゼル編】

# 転換期を迎えた「時計の祭典」を 舞台に披露された新作たち

3月22日から27日までの6日間にわたって開催されたバーゼルワールド2018。例年よりも会期が2日間短縮され、出展数も半減したとはいえ、各社各様に持ち味を生かした新作が登場した。バーゼルワールドと、隣接するハイペリオン・ホテルで発表された新作をブランド別にご紹介する。

099 新製品情報

104 カール・サッキ&ゾーネ

## 21世紀に甦ったハプスブルク朝の宮廷時計師の名

106 タグ・ホイヤー 銀座ブティック

## 新しいコンセプトを導入した体験型ブティックが誕生 赤と白で日本を表現した限定モデルを発表

108 シクロノメトリー・フェルディナント・ベルトウーシ 発表会

## 現代に甦った18世紀のフランス海軍を支えた時計師の名

109 ショパール100%エシカルゴールドへのエンゲージメント

## すべてのゴールドを「責任ある産地から調達」を宣言

110 ダヴィッド・カンドーとハーフ・ハンター・トゥールビヨン

## バーゼルワールド直前に東京で新作をお披露目

111 カルティエ Santos de Cartier -living for the thrill-

## サントスIIデュモンのスピリットを再現したデジタル・ワールド

112-120 インフォメーション／問い合わせリスト／次号予告

A.ランゲ&ゾーネ ヱトリプルスプリット

# 12時間耐久レースの測定も可能にしたスプリット・クロノグラフ

今年のSIHHでA.ランゲ&ゾーネが発表したトリプルスプリットは2004年のダブルスプリットの進化形であり、スプリット針を備えた12時間計が加わった。こうして測定時間が大きく延長された最新クロノグラフのプロトタイプを操作してみた。



シースルー・バックより眺める複雑なスプリット・クロノグラフ・ムーブメント。サイズは直径30.6mm×厚さ9.4mmで、12層/567の個パーツが使われる。

これは前号のマイ・チョイス——スプリット・セカンド・クロノグラフ（ラトラパンテ）の項でも触れたことだが、通常のクロノグラフとスプリットの2本の秒針を使って、ふたつの経過時間を測定できるスプリット・セカンド・クロノグラフは確かに素晴らしいものの、残念ながら通常の生活ではその用途はある程

度限られたものでしかない。これがスポーツの世界、たとえば陸上競技などでは多少なりとも使い道が広がってゆく。しかし、である。1位と2位のタイムを同時に計ることができると一般的に信じられているスプリット・クロノグラフだが、その実情は少々異なるものだ。つまり、実際にサーキットや陸上トラックなどで、

1位と2位のタイムを取ろうとした時、たとえば接近戦を展開している場合にはうまくゆかない。そう、2つのプッシュ・ボタンを瞬時に押し分けることなど、はじめから無理な話だからである。

またその逆に、1位と2位のタイムが60秒以上離れている場合にも微妙な不都合が生じてしまう。それは、積算計を装備しているのはクロノグラフ針（2位測定用）のみであり、はじめに停止するスプリット秒針（1位測定用）には積算計が装備されていないため、直ちに記録する必要が生じる。さもないと、1位の正確なタイムが一体全体、何分なのかわからなくなってしまうからだ。

しかし、嬉しいことに物事には例外がつきもので、後者の欠点を見事に解消してくれるのが、ここに紹介する、トリプルスプリットである。左ページの写真を参照して戴きたいが、その最大の特徴は3時半の位置の30分積算計と、12時の

12時間積算計の両方にブルーとシルバーの2本の針、つまり、それぞれスプリットとクロノグラフの経過時間を知らせてくれる有効なふたつのトータライザーを備えていることだ。即ち、測定を終えたそれぞれの正確なタイムは、積算計の2本の針からきつちりと読み取ることができる。

本機は今年のSIHHで発表されたばかりの最新作であり、機構的には2004年に限定生産されたダブルスプリットの発展モデルである。具体的には12時位置に置かれていたパワーリザーブ計を6時に移動し、その場所に新たに12時間積算計が取りつけられた。これによって、測定時間がそれまでの60分から12時間へと増えたため、遣い勝手は比較にならないほど飛躍を遂げた。ちなみに、これによって測定は、陸上競技の1000m競歩（概ね40分前後がやっとだったものが、その気になれば12時間耐久レースの1位と2位まで測定することが可能となった。

パルミジヤニー・フルリエ ヌブガッティ・タイプ390

# 妥協のなさが生んだドライバーズ・ウォッチ

実に数多くの時計ブランドがクルマとのコラボレーション・モデルを発表しているが、そのなかでも異色な存在がパルミジヤニー・フルリエだ。昨年にはブガッティ・シロンの発売に合わせて、ブガッティ・タイプ390を発表。この時計を通して、「異色」の理由を探ってみよう。



初代のブガッティ・ウォッチ、タイプ370。正面に文字盤がセットされており、上から見える輪列はコンロッドを備えたクルマのエンジンを思わせる。



①デローリアンDMC12（ロマン・ジエローム）、②マクラーレン（リシャール・ミル）、③トロ・ロッソF1（カシオ）、④ザウバーF1（エドックス）、⑤ポルシェ

911（ポルシェ・デザイン）、⑥⑦アストンマーティン（ジャガー・ルクルト／タグ・ホイヤー）、⑧⑨フェラーリ（アップロ／スクーデリア・ウォッチ）、⑩ウィリア

ムズF1（オリス）、⑪ピニンファリーナ（ボヴェ）、⑫ブガッティ・タイプ37CS（ラルフ・ローレン）、⑬ジウジアーロ（セイコー）、⑭トヨタ86（シチズン）、⑮ルノーF1（ベル&ロス）、⑯ACシエルビー・コブラ（ボーム&メルシエ）、⑰ポルシェ919レーシング（シヨパール）、⑱レンジローバー（ゼニス）、⑲ランボルギーニ・アヴェンタドールS（ロジェ・デュバイ）、⑳ホンダNSX（セイコー）、㉑ブガッティ（パルミジヤニー・フルリエ）

実は、これは近年製作されたクルマとのコラボレーション・ウォッチを思いつくままに書き出したものである。従って、抜け落ちていた時計もいくつか存在することだろう。そして、今がこの種のモデルの絶頂期にあることは十分理解しているつもりだったが、正直なところその数の多さには少々驚かされてしまった。

さて、この時計の中でほかとやや異なっているのが、パルミジヤニーである。それは、実車のデビューに合わせてコラボレーション・ウォッチが登場することだ。初代のブガッティ・ウォッチ、タイプ370は、ブガッティ・ヴェイロンに合わせて製作された。ミッドに搭載したヴェイロンのW型16気筒／8リッター・エンジンは4基のターボチャージャーにより1200馬力の高出力を発生、最高速度は405km/hと謳われたが、その当分の数値は世界最速であり、また価格（約100万ユーロ）も最高であった。むしろ、このクルマに似合った時計づくりを目指したパルミジヤニーが仕上げたモデルは「只者」であるはずはなく、ステアリングを握っていても時刻が確認できるように正面に文字盤を備えた完璧なまでのドライバーズ・ウォッチであり、さらにトゥールビヨン・エスケープメントを備えたパワー・トレインは、まるでクラシク・シヤフトを備えたエンジンのようなユニークなスタイリングを備えていた。

ボーム&メルシエ ックリフトン・ボーマティックCOSC認定モデル

# 先端技術が生んだボーム&メルシエ初の専用ムーブメント

ボーム&メルシエは今年のS-I-H-Hで重大な発表を行った。それが初の専用ムーブメントだ。リシュモングループの頭脳を結集し、先端テクノロジーを駆使した意欲作にほかならない。ックリフトンに搭載したムーブメントの詳細をみてみたい。



ビス留め式のシースルー・バック・ケースから眺める最新のボーマティック・ムーブメント、BM12-1975A COSC。ストラップはワンタッチで交換可能なアリゲーターを装着。

ボーム&メルシエに初の専用ムーブメントが登場したことは、この春にジュネーブで開催されたS-I-H-Hの速報でもお知らせしたとおりである。決して面白いとは言えない現在の時計業界の景気を反映してか、今年はやや地味目なS-I-H-H

だったものの、その中であって、この新しい自動巻きムーブメントがもつ盛り沢山なスペックには光るものが感じられた。新たに、ボーマティック・ムーブメントと名付けられたデイトつきで自動巻き機構を採用した新型キャリバー、BM

1211975A COSCの設計と開発は、リシュモン・グループ内で行われたものである。たとえば3倍のルーペを使ってディテールをくまなく探れば、リシュモン・ムーブメントと称される既成の自動巻きキャリバーのごく一部のパーツが流用されていることが分かるものの、もちろんその本質は最新のテクノロジーを導入した新設計のムーブメントである。もともと大きな特徴は、精度を高めると同時に、ロング・パワーリザーブ化を達成したことだ。これらは主にアンクル・ガンギ車、ヘア・スプリングをシリシウムに置き換え、さらにメイン・スプリングの強化とパワー・トレインの見直しなどを図り、効率やトルク伝達の向上を成し遂げた結果である。もちろん、シリシウムの採用などにより耐磁性は15000 Gaussにまでアップしており、それぞれの具体的な数値は精度でCOSC基準の日差-4秒/+6秒をクリアし、パワー

リザーブ量は約5日間/120時間に及ぶ。なお、これらの新しいメカニズムに加え、ルブリケーションには最新の潤滑油が導入されたため、メインテナンス期間の目安はこれまでの約5年間から、7年以上へと伸ばすことができたとのことである。

さて、この最新のムーブメントは、2013年に登場したクリフトン・コレクションに搭載されてデビューを飾った。言うまでもなく、そのポジションはシリーズ最上級である。まず、5気圧防水でシースルー・バックを装備したケースは、ひとまわり小振りで、僅かに薄い直径40.0mm×厚さ10.3mmが採用された。そのデザインは今までどおりシンプルではあるものの、アプライド・バー・インデックスとアルファ・ハンドを採用したダイアルの全面には印象的な大きなクロスが描かれるとともに、6時のポジションには目新しい「BAUMATIC」の名称に加えて、

## 2018年ブランド別新作情報【バーゼル編】

# 転換期を迎えた「時計の祭典」を舞台に披露された新作たち

「バーゼルワールド2018」は3月22日（木）から3月27日（火）までの6日間にわたって開催された。例年どおりの世界最大規模の時計と宝飾の祭典ではあるが、今年はやっと様子が違っていった。昨年までは8日間の開催だったが2日間短縮され、また出展数も約1300社から約600社に半減。とはいえメイン会場であるホール1の1階の目抜き通りにブースを構えるパテックフィリップやロレックス、シヨパール、そしてLVMHグループとスウォッチグループの各ブランドは変わることはなく、各ブースは相変わらずの賑わいを見せていた。しかしエルメスは1月のSIHHに新作発表の場を移し、モバード・グループ（モバード、コンコルド、エベル）やデイオー、プシユロンなどが出展を中止。このほか会場に隣接するハイペリオン・ホテルにブースを構えた小規模メーカーもある。このため昨年まで使われていたホール1の3階は閉鎖され、規模の縮小は明らかだった。ただ半減の大きな原因はホール2に集まる中小規模の宝飾ブランドが出展料の高騰を理由に姿を消したためようだ。そうは言っても入場者数は大きく減ることなく、主催者側の発表によると最初の2日間は前年比8%増だったという。さて今年もブランド別に主だった新作をご紹介します



しよう。大きな話題には欠けていたものの、各社、着実に得意とするところを進化させている。オメガは1万5000ガウスの耐磁性をもつ「コーアクシャルマスタークロノメーター」の定番化に向けて拍車がかかる。ロレックスは地道に改良を重ねた新作を発表。ウブロでは赤のセラミックス・ケースが登場し、サファイアクリスタル・ケースのモデルも増え、外装開発にも力が入る。経営体制が変わったブライトリングは、新作を通して新たな方向性を披露した。小規模な独立系のブランドが集う「レ・アトリエ」は個性派ぞろいだ。彼らは一昨年までは会場外に設けられたパレス（通称テント村）で展示を行っていたが、昨年ホール1に場所を移し、名称も「レ・アトリエ」となった。ここにはメジャー・ブランドとは異なる独自の発想がある。アンジェラス、アーノルド&サン、チャベック、ファール・ルーバなどHブランドを取り上げた。規模縮小とはいえ、時計の祭典を包む熱気は変わらない。最終日には「バーゼルワールド2019」は3月21日から3月26日に開催。ロレックス、スウォッチグループ、LVMHシヨパール、ブライトリングシャネル、その他多くのブランドが出展を約束」と発表された。現代に則した新しい環境づくりも検討されているようだ。（香山知子）

# 赤と白で日本を表現した限定モデルを発表



iTAGを体験するベラ・ハディッドさん。彼女が着用している時計は「タグ・ホイヤー リンク レディ ベラ・ハディッド・スペシャルエディション」。



歌舞伎役者の中村獅童氏、モデルのベラ・ハディッドさん、タグ・ホイヤーCEOのジャンクロード・ビバー氏によって鏡開きが行われた。



「タグ・ホイヤー カレラ キャリバー・ホイヤー01 クロノグラフ TOKYOエディション」。直径43mmのブラックPVD加工のSSケースにブラック・セラミックス製ベゼルを組み合わせ、自動巻きクロノグラフのCal.HEUER01(毎時2万8800振動、パワーリザーブ約50時間)を搭載する。価格69万6600円。旗艦店の記念モデル限定100個。



「タグ・ホイヤー カレラ キャリバー・ホイヤー02T GINZAエディション」。直径45mmのチタニウム・ケースにホワイト・セラミックス・ベゼルを組み合わせ、Cal.HEUER02T(毎時2万8800振動、パワーリザーブ約65時間)を搭載する。価格295万9200円。日本限定20個。

もう一方はブラック・ベースに赤を取り入れたキャリバー・ホイヤー01搭載モデル。ブラックとレッドを基調としたブティックの内装を思わせるカラーリングで、裏蓋のサファイアクリスタルには赤でTOKYOの文字が入られた。

時計を着用して鏡開きに臨んだ。

もう一方はブラック・ベースに赤を取り入れたキャリバー・ホイヤー01搭載モデル。ブラックとレッドを基調としたブティックの内装を思わせるカラーリングで、裏蓋のサファイアクリスタルには赤でTOKYOの文字が入られた。

4月9日午後、タグ・ホイヤー銀座ブティックのオープニングセレモニーが店頭で開催された。グローバルオフィシャルアンバサダーのモデルのベラ・ハディッドさんはブティック限定モデルに因んで赤のギンガムチェックのワンピースで登場。彼女のインスタグラムは約1800万人のフォロワーがいると言われ、『フォーブス』誌による「2017年度もっともフォロワーされているモデル」で4位を獲得し、デジタル・メディアの世界でも人気が高い。コネクテッド・ウォッチにも力を入れるタグ・ホイヤーが彼女を起用したことも頷ける。

オープニングを記念してふたつの限定モデルが発表された。いずれもカレラをベースにしたもので、方や歌舞伎の隈取をイメージしてホワイトをベースに赤をアクセントに使った、キャリバー・ホイヤー02T搭載モデル。歌舞伎役者の中村獅童氏が特別ゲストとして招かれ、この

KESAHARU IMAI  
Publisher

TOMOKO KAYAMA  
Editor in Chief

KAZUO TSUBOI  
Advertising Director

SHUNSUKE OGAWA  
Production Director

HIROSHI SASAGAWA  
Circulation Manager

DTP  
BASE

Correspondent  
Washington, D.C. Bureau  
(Pictorial Press International)  
Mikako Burks

Cover Photo/  
Courtesy of Rogger Dubuis

●本誌に掲載されている価格は  
平成30年5月31日現在の調べによるものです。  
本文中の価格は消費税込の総額表示です。  
© WORLD PHOTO PRESS 2018

【次号予告】

2018年の

# 新作を検証

1月にジュネーブで開催されたSIHHをはじめとする新作発表会と3月のバーゼルワールドでお披露目された

各社の新製品の概要を2回にわたってご紹介しましたが、そのなかでも注目される新作をより詳しく掘り下げていきます。

「今年の新作はもうひとつ面白くない」という声も聞かれましたが、それぞれの持ち味が発揮された興味深い時計も見られます。ウブロのレッドマジックやユリス・ナルダンのフリースビジョンなどを取り上げる予定です。

「世界の腕時計」第137号は2018年9月7日発売です。

## 世界の腕時計 定期購読のご案内

### 毎号、送料無料でお届けします!

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方  
便利な定期購読を是非ご利用ください。  
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

#### 【年間購読料】

1年間(年4冊) **6,584円(税込)**

(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



#### 【お申し込み方法】

フリーダイヤル 富士山 富士山

●お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**

●インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>

●携帯電話から <http://223223.jp/m/sekainoudedokei>

●QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

#### 【お問い合わせ】

富士山マガジンスerviceカスタマーセンター  
パソコンサイト:<http://fujisan.co.jp/cs>  
メールの場合:[cs@fujisan.co.jp](mailto:cs@fujisan.co.jp)  
に、お問い合わせください。

#### ■注意事項

- 定期購読の契約は、富士山マガジンスerviceとの契約となります。
- お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。
- 地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承ください。
- 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承ください。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

お詫びと訂正: 第135号のP56に編集部の事実誤認により誤りがありました。  
7行目: (正) 25度傾斜したトゥールビヨン、(誤) 24度傾斜したトゥールビヨン。  
8行目: (正) 33個の限定、(誤) 32個の限定。  
関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたこととお詫びし、訂正いたします。

ワールドフォトプレス ホームページ <http://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K

ワールド・ムック1177

## 世界の腕時計

No.136

平成30年7月15日発行

発行人……………今井今朝春

編集人……………香山知子

発行所……………株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

編集部…………… ☎03-5385-5667 FAX.03-5385-5617

広告営業部…………… ☎03-5385-1350 FAX.03-5385-1348

販売部…………… ☎03-5385-5701 FAX.03-5385-5703

印刷所…………… 大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら  
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。